

「プロジェクトX「四万十の宿」・「四万十いやしの里」を振り返って

松山大学大学院経営学研究科 博士研究員 八木 英夫 氏
(元四国旅客鉄道株式会社 事業開発室長)



本年の7月2日に、「四万十の宿」・「四万十いやしの里」は地元の方や、観光・宿泊客に愛されて無事開業20周年を迎えることができました。本プロジェクトの企画段階から完成への道筋をつけるまで関わった者として、当時を振り返りながら時系列的に整理し、まとめてみたいと思います。

小職は、旧日本興業銀行（現在のみずほFG）の出身ですが、1999年6月に出向という形でJR四国の事業開発の責任者として赴任し、2002年の2月に銀行に戻るまで約2年8か月担当致しました。

四万十いやしの里事業は下表にある通り、旧中村市（現四万十市）の中医学研究所、及び「四万十いやしの里」と、JR四国の「四万十の宿」の3施設から構成。そのうち中医学研究所は中村市の単独案件でありましたが、「四万十いやしの里」（事業主：中村市）と「四万十の宿」（事業主：JR四国）はコンセプトの一体性が求められることから、㈱PES建築環境設計に設計とコンサルを、そして運営はJR四国の100%子会社である宇和島ステーション開発㈱（以下USKという）にお願いすることにより完成したものです。

表 四万十いやしの里事業

施設名	中医学研究所	四万十いやしの里	四万十の宿
事業主	中村市	中村市	J R 四国
主要機能	(診療) ・ 診察 ・ 鍼灸 ・ 調剤 (研究・教育) ・ セミナー室 ・ 資料、図書室	(薬膳料理、温泉・海水湯・薬湯、気功・太極拳・マッサージ等) ・ レストラン ・ 浴場 ・ 多目的会議室 ・ 図書・談話室等	(宿泊施設) ・ 客室 30室 (ツイン26室+和洋室4室) ・ 定員 72名
運営	中村市立市民病院	宇和島ステーション開発㈱ (レストラン、浴場等は中村市より業務受託)	宇和島ステーション開発㈱
施設規模	2階建て 延床面積約1300㎡	地上2階、地下1階建て 延床面積約2000㎡	2階建て 延床面積約1100㎡

(出所) JR四国ニュースリリース (2002.2.25) をもとに作成

本プロジェクトは、いわば中村市とJR四国G(含むUSK)、そしてPES建築環境設計の3者による共同プロジェクトでした。

そもそも四万十いやしの里事業は、1992年頃構想が浮上(当時の岡本市長が市長選の公約として掲げたことが発端)したものです。当時は東洋医学の里事業と称され、その後、中村市役所の中に東洋医学の里推進室ができるなど事業の推進体制は整備されて、99年3月には某建設コンサルタント会社による基本設計は完了